

保険が使える？使えない？

治験コーディネーター見習い中の薬局薬剤師が「薬担当者の小嘶」として、医薬品の開発や薬の使い方を医療関係者の視点から伝えていきます。

病院や薬局などの医療機関で支払っている費用は、全額ではなく、実際にかかった費用の**一部負担金のみを窓口で支払っている**のをご存知でしょうか。中には**保険が使えない治療方法**があり、その場合は**全額を支払わなくては**いけません。「**保険を使って治療をする**」とは、どのようなものなのでしょうか。

日本における保険診療とは

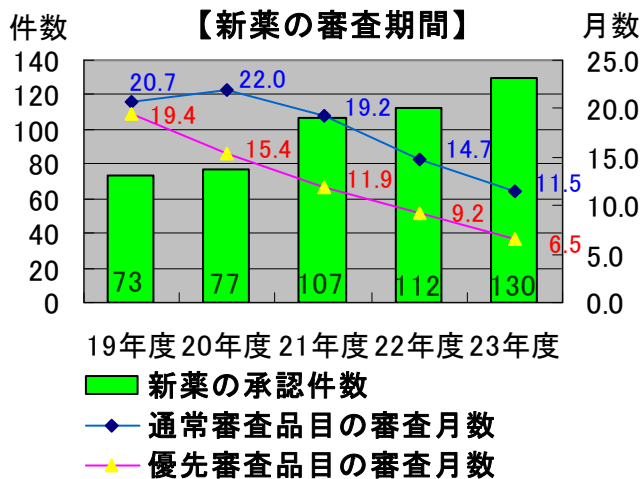
日本では、1958年に制定された国民健康保険法により、**国民皆保険**という制度を導入しています。原則として全ての国民が何らかの医療保険に加入するとして、平等に医療を受ける機会を保障する制度です。

医療機関の窓口で支払わなかった分のお金は、加入している医療保険により異なりますが、**国や企業の保健組合**などから医療機関に支払われています。そのお金は**保険に加入している人たちが、国や企業の保健組合に支払っている保険料**が主に使われており、そこには、**健康な方たちが支払った保険料が、さらには、税金も含まれています**。保険を使うということは、**病気にかかった患者さんだけ**ではなく、**社会全体で治療にかかるお金を負担している**と言えます。

具体的には、**人間ドック**は病気の疑いもなく専門家である医師の判断もなく自己判断で行っているため**保険は使えません**。定期的な検診などは**企業や市町村などの地域が負担**していることが多いです。他には、**ピロリ除菌**があります。胃炎などの病気と診断された場合は**保険が使えます**が、**ピロリ菌がいる**だけでは必ずしも**病気になる**わけではないとして**保険が使えない**場合があります。

保険が使えないことが治療の妨げに

治療が目的でも**保険が使えない**場合もあります。保険適用になるかどうかは、**治験などの臨床試験のデータを基にした科学的根拠を示し、その結果を国による審査を通して、決定**されています。**国が承認していない薬は、既に海外において効果が出ている薬でも**保険が使えず****、患者が**治療費を全額負担**しなくては**いけません**。金銭的負担が大きくなることを懸念して、**最善の治療を受ける**ことができなくなっている現状があります。



参考：H25年度 治験推進地域連絡会議 厚生労働省医薬食品局 審査管理課 資料

日本の薬は「**ドラッグラグ**」と呼ばれる問題があります。承認にかかる時間が、海外と比較すると**日本の方が長い**ため、日本の治療は**海外に比べて遅れがち**になってしましました。最近では**国や医師会・製薬企業の取り組み**によって、**少しずつドラッグラグは改善**されてきています。新薬を海外と同時に**治療**を行ったり、**新しい治療方法が保険適用**になるように**医師主導での臨床試験も活発**になっていきます。今後は**治療の選択肢が増える**ことで、**より良い治療を受けられる**ようになるでしょう。

そのため、必ずしも必要としない治療や検査の場合などは、**病院や患者本人で負担**してもらうこともあります。

なかよし薬局では、地域貢献型の医療を目指して一緒に仕事をしてくれる薬剤師を募集しています！
詳しくは下記連絡先まで！また、薬剤師を対象とした復職支援も行っています！

株式会社イノベーションオブメディカルサービス 厚木支社 (採用担当) 電話 : 046-220-1171

電子メール : recruit@ims-inc.co.jp

Writer:Kuniyoshi Matuoka Directed by:Jun Ichikawa

